



写真・市谷 健「こゝ集中！」

バリアフリー

老人ホームや独り暮らしのお年寄りを訪ねて、話を傾聴するボランティア活動をしている方を三年ほど前に紹介しました。同じような年だから分かる悩みや寂しさを、少しでも和らげることができればと思っているとのことでした。神奈川県平塚市の熊沢晴子さんからその後のおたよりです。

—— 私たちの傾聴奉仕団に新しく、二人の視覚障害の方が仲間に加わりました。定例の集まりで、たとえ目が不自由でも、相手の方の心に寄り添ってお話を聴くことならできるかもしれませんと挨拶をされました。

「私はいつも他の人からお世話になっただけですが、そのご恩返しができないかと思ってお仲間に入れていただきました」。

みんな聞きいり、拍手が鳴りやみませんでした。障害を持っている人も健常者も共に一つの活動をするのです。私はこれこそほんとうのバリアフリーと熱くなるほど感激しました——。

ダスキンも「広げよう愛の輪運動」を始めて三十年。「めいあいへるぶゆう(何かお手伝いすることはありませんか)」。一人ひとりができることは、ささやかなことかもしれませんが、小さなボランティアの輪が広がって、障害のあるなしにかかわらず、みんなが心豊かに暮らせる社会になるよう願っています。

株式会社ダスキン会長

伊東英幸

喜びのタネまき新聞

読む人の幸せを心に願って作る

no.496

ふるさとへの暮らし⑦ 「村の道で」

久しぶりにふるさとに帰ると、子どもの目で見た

記憶の中の風景と今見ている風景を比べてしまいます。

家並みだけでなく、自分のモノサシも変わっていることに気づくのです。

ふるさとの島に帰ると、決まっ

も短く感じるのだ。

て最初に驚くのは、道幅が狭いと

子どもの頃、広い広いと走り回

いうことである。狭いうえに距離

つて遊んだ道路が、手を広げると

届きそうな幅だったり、いくらジヤンプしても届かなかった隣の家の軒先が、手を伸ばせば簡単に届く低いものだったりする。

オーバーに言えば、しばらくはガリバーの物語の国に迷い込んだ状態になるのだ。

二、三日は、村を隅々まで歩き回る。遠い記憶と目の前の現実とを比較検証しながら、この石垣は昔のまま、こけの生えかたまで同じだが、このあたりに建っていた家がなくなっているとか、こんなところにプールが造ってある、自然の海が近くにあるのに、とか。すべてが懐かしく少し哀しい。しかし、浮き浮きした旅行者気分にもなるのである。

向こうから、同級生のお父さんによく似た人がひよこひよこ歩いてくる、挨拶しようとする、本人だつたりする。彼が親父さんに似ていることに驚くと同時に、自分たちが歳をとったことに気づく瞬間でもあるのだ。

数年前に帰ったとき、このようなことは学習済みなのにすっかり忘れて、まったく同じことに驚くから面白い。

島で生まれ島で育った、中学生までの最初の強烈な記憶が、基本になっているからだろうか。



絵と文 版画家 中野洋一

版画家、陶彫家。鹿児島県生まれ。故郷の風物等をテーマに木版画や陶彫制作。1995年には朝日新聞日曜版のカトを連載。オランダ国際版画ビエンナーレ展入選など国際的にも活躍。



家族、近所の人、
学校や会社の人、
ダスキンのお客様
係に向けてなど、あ

なたが伝えたい“ありがとう”の気持ちをエピソードと一緒に綴ってお便りください。おたよりの一部は、500号で発表します。ご投稿いただいた方全員に記念の粗品をご用意しております。

■字数目安：200字～400字

■締切日：2010年10月31日(日)必着

■記入事項

お名前、ご住所、お電話番号、年齢、職業、現在ご利用の店名(お客様係に対するお話の場合は、係の名前もご記入ください)

■応募方法

郵便又は、メールにてお寄せ下さい。

【郵便】〒163-0223

東京都新宿区西新宿2-6-1

新宿住友ビル23階(私書箱47号)

ダスキン「喜びのタネまき新聞」

ありがとう募集係宛

【メール】(携帯電話、PCから)

koho4@mail.duskin.co.jp

■規則：応募点数は問いません。作品の転用はご遠慮ください。

■お問い合わせ

ダスキン「喜びのタネまき新聞」編集室

TEL：03-5909-6703

メール：koho4@mail.duskin.co.jp

■発表：喜びのタネまき新聞500号

ご紹介させていただいた方には、別途お礼をさせていただきます。

※ご投稿いただいた方全員に、記念の粗品「種入り絵本」を送りさせていただきます。

【種入り絵本】

4種類のお花の種が入っている小さな絵本です。どんな種が入っているか、お楽しみに!



あの人に伝えたい「ありがとう」のエピソード大募集

おやつ時間

簡単、美味しい楽ラクレシピ



お料理研究家 こいけりえ

「スイーツポテト」

サツマイモおやつ

ビタミン、ミネラル、食物繊維が豊富なサツマイモ。今回はおなじみのスイーツポテト。おいしい作り方を教えます。秋に子供達がお芋ほりで収穫したサツマイモを使ったり、焼き芋一辺倒のおばあちゃんにあげたり。是非一度チャレンジを!

◎作り方(10個分)

中くらいのサツマイモ(400〜450g) 2本は、1〜1.5cm幅の輪切りにして、軽く水にさらしておく。さらしたサツマイモを鍋に入れて水を加え、全体に色が変わってやわらかくなるまで茹でる。竹串がスッと入る感じが目安。

茹で上がったザルにあげて湯を切り、熱いうちに皮をむいてマッシュャーでよくつぶす。マッシュャーがなければスプーン、ヘラ、すりこぎ等でもOK。さらに裏ごしをする。と、より滑らかな口あたりになります。

つぶしたサツマイモを鍋に入れて、無塩バター30g、グラニュー糖60g、生クリーム60mlを入れてよく混ぜ合わせる。弱火にかけて、水分をとばすように充分に練り上げる。ヘラで取って落ちないくらい、もったりとするまで練る。

火から下ろして少し冷ましたら、仕上げに卵黄1個とバナラエッセンス



3分ほど10分ほど

少々を加えて、さらに滑らかになるように混ぜ合わせる。

生地を10等分にして形を整える。大きめのスプーン2本を使って形を作ると、スイートポテトがきれいに出来ます。仕上げは手を少し湿らせて形を整えます。

オーブン用シートを

天板に敷いてからサ

ツマイモを並べる。そ

の上に卵黄1個とみ

りん小さじ1を合わ

せてよく混ぜたもの

を、つや出しのために

刷毛で2回ずつ塗る。

オーブンを200℃

に予熱しておき、6

〜7分焼く。

お好みで、仕上げにシナ

モンパウダーをさっとかけ

ると香りが豊かです。

表面に焼き目を付けたい場合は、アルミ

ホイルを敷いたオーブントースターに入れ

て、さらに少し温めると表面に焼き色が

付きます。

外はこんがり中はしっとり、アツアツでも

冷めても美味しいスイーツポテトの出来

上がり。



さらさらのペーストを型に入れて焼く。オーブンに生地をのせる

捨てる物を生かすのが面白い

- 「裂き織りのいいところはね！」と開口一番。
- ① 捨てるに再利用ができること。
 - ② 布を裂くのがストレス解消になること。
 - ③ 手仕事の達成感があり丈夫で長く使えること。

なんともうれしそうに作品を見せてくれるのである。美しく肌ざわりが良く、なるほどやりがいがあるはずと納得。布の材料はほぼタタ。

「残り物に福があるって言うじゃない？」と笑う。

「年とったモノへのい

たわりが出てき

たというか。人

間も歳とって

も、私だって捨

てたものじゃな

い、もう一役してか

ら、と誰でも思うでしょ」幸せはモノを買うだけじゃない。捨てる物を生かすこと。美しく生かせばもっと楽しいと言う。

紺と白の縞がシャープで美しいラグはジーンズと白いTシャツ。もともと丈夫な素材でタテ糸にしっかりとしたものを使うから洗濯に耐える。

「こっちは息子のTシャツ4枚、クッションは綿ローンのカーテンがもつたいなくて、裂いて柿しぶで染めてから使ったの」使っては大切に洗ってきた物を愛着をもって織ったのである。だから美しい。

この織り物が「2日もあれば初心者でもできる」と聞いて驚いた。ただし、ひたすら裂いて織って手仕事をやりまくる。ほかは考えず没頭。正直キツイと思い始めた終わり頃、「できたあ！」と完成。

「みなさん、達成感で癒され、幸せになってお帰りになります」と内山さんはニコリするのだ。

「幸せとはモノを買う

こちらは世界に一つだけのバッグを制作中。迷いつつ、「う〜ん、こっちは…」



「だけじゃ ないわネ」

着古したジーンズやTシャツを裂き織りでラグやバッグに再生。美しいし、エコで丈夫。古い着物やシャツなど、捨てられずに手元にあるものを再生するうち「はまったの」という内山さん。「工房むめい花」を山梨県道志村にお訪ねしました。

「裂いてから柿しぶで、タテ糸は墨で染めたの。手をかけると応えてくれる感じね」





織機の前で「作ってみることって面白い。年取ったものに対するいたわりも出てきて、はまったの」

コートと同じ着物裏の紅の絹を裂いた。色のニュアンスが美しい。



エコの 裂き織り

——内山すみえさん



遠くから母娘でナバホ織りを習いに来ていた。裂き織りより難しいので、一度に教える人数は少ない。

工房 まで建てちゃったの

もう25年前になるが、東京は渋谷にある松濤美術館で、アメリカインディアンの「ナバホ織り」を見て、涙が出た。大きく言えば「人はどこから来て、どこへ行くのか」という思い。悠久の自然と人生の厳しさや祈りを織りの美に直感し、持ち前の行動力で、内山さんはアメリカへ飛んだのである。

それから10回ほどアメリカへ。ナバホ織りをライフワークにと思う内、習いたい人が内山さんのことを知って訪ねてくるようになった。好きで始めたことである。断れるわけがない。

ナバホ織りは手ほどきでも何日もかかるので、地方の方はホテル代がかさむ。見かねて自宅に泊まってもらったりしたが、遠慮して固辞なさる方もいた。それで、山梨県道志村に工房を作って泊まれるようにしたという。10年以上前になる。

「初めは作業場と違って、それがロフト作って、囲炉裏まで作り、お酒飲んで楽しくなっちゃった」とご主人。友人の4家族がほとんど自力で建てた家は「こうしたいね」と言う度に間取りが増えた。

商売ではないなあと思う。生きがいというには肩の力が抜けているが、教え方は徹底している。ちゃんとしたものを作って、帰ってもらいたいので、裂き織りだと1回5人までの教室だ。作品が出来上がるまで手取り足取り、つきつきり。

「やっぱり好きなんですネ」笑顔が輝いていた。



留め袖

北海道函館市 今井敏子

息子の結婚式がありました。そのときには母の留め袖を着ようと心に決めておりました。母が亡くなって17年が経ち、初めてたとう紙を開きました。私が結婚するとき母が47歳で着た留め袖です。私の結婚式に写した写真をバッグに忍ばせて、息子の結婚式に臨みました。

その写真には留め袖を着た母と父と、叔父叔母、妹、いとこ達10人が写っておりますが、今はその中の7人がおりません。私より10歳も若い妹は、3年前に旅立ちました。

披露宴のプロフィール紹介のビデオでは、幼い息子が紹介され、その傍らには、私の両親と一緒にの写真や、叔父、叔母、妹と写っている一枚もあり、それらを選んでくれた息子の思いやりに涙が出ました。2、3日してぶら下げていた留め袖を畳みました。この次は誰が着るのだろうと思いつながら、母の体を撫でるような気持ちで丁寧に畳み、たとう紙の紐を結びました。

—— おかあさん……



私のおじいちゃん

堺市 西野楓佳

私は小学6年の女の子です。私のおじいちゃんはやせっぽちで、働き者で、74歳になった今も元気に会社勤めをしています。お酒もたばこもやりません。いったい、おじいちゃんには何の楽しみがあるのか聞いてみました。すると、

「おまえ達がだんだん成長していくのが楽しみなんじゃ」と笑いながら答えてくれました。

そのことをお母さんに話すと、「おまえ達が大学まで行けるよう、学資金を貯めてくれているんだよ。おじいちゃんが小さかった頃、おうちがびんぼうだったため、上の学校に行けなかったそう、大変くやしい思いをされたそうよ」と教えてくれました。私も一生懸命頑張っておじいちゃんに応えなくちゃと思います。

—— いつまでも元気だね……



お義母さん

岐阜県恵那市 西村文江

お義母さんが97歳で旅立ちました。私が嫁いだ日は雨降りでも忘れません。顔を見るなり、「来てくれてありがとう。きれいだよ」と言っておりました。本当に安心して、嬉しかったです。義母とはいつも一緒に居りました。夫は、「おれは養子か」と笑っております。悲しいことも、お義母さんのお陰で乗り越え、今日があります。

生前、アルバムの整理を始めた義母が、一枚の写真を見せて「これを遺影にして」「……」夫婦旅行の時、おじいさんも良い顔です。

「今から早いよ！何言ってるの」驚く私に、着物はこの着物など細々と「嫁に全部伝えたいし、これで安心した」と冗談のように笑ってお茶を飲みました。——お義母さん、私、言われた通りになりましたよ。これで良かったですね。後は一歩一歩楽しむでしたね。ありがとうございました。

—— いつまでも心の中。



有明海の恵み

佐賀県白石町 森道子

いよいよ海苔養殖シーズン。我が家は潮間に作業をする。朝早い時は、婦人会の立ち番も義母に頼んで出航です。

前準備の支柱立てに忙しいこの頃、船で移動中いくつもの魚影群が……。釣りをする暇もないので欲は出さずに帰る途中、なんとお魚自ら船の中に飛び込んで来た。飛び跳ねるボウです。

一日目は味噌汁に、二日目はお刺身に。虫も逃がす仏の三男は「出来たらお魚、逃がしてやってね」と言っていたわりには、三杯も味噌汁をおかわりしてました。

宝の海有明海の恵みを労せずして頂き、この上なく幸せな夕飯にありつけた。さて、明日は何匹釣れるかな？あつ違った、飛び込んで来るかな？

—— 昨年の楽しいお便り。今年もカンバン！

役割
お芝居には、それぞれの役がある。社長になる役、ママムの役あるいはまた苦しみもがく不幸な人を演ずる名優もある。さて、人生もまたお芝居だとみればあなたに割り当てられた役は何でしょう。たとえ、かなしい、つらい立場でもかけ替えのない役だとして立派に生きぬいてゆく事だ。自分の仕事はやりとげて、なお他の人を助けることだ。

鈴木清一

「可愛いもんじゃないよね!」「う〜ん、どーかな〜」



兵庫県姫路市 岩崎直美

●投稿には、名前、年齢、職業、住所、電話番号、現在ご利用のダスキンの店名をお忘れなく。紙面やホームページでご紹介させていただいた原稿や写真にはお礼をさせていただきます。

●送り先

〒163-0223
東京都新宿区西新宿2丁目6番1号
新宿住友ビル23階(私書箱47号)
ダスキン「喜びのタネまき新聞」編集室
電話 03(5909)6703
e-mail: koho4@mail.duskin.co.jp

無料

おそうじ相談
実施中!

ダスキンコールセンター
平日の9:00~17:00
0120-100-100

●2ページの中野洋一さんのアトリエ
〒896-1301 鹿児島県薩摩川内市鹿島町蘭牟田2131-203

●4-5ページの裂き織り
工房むい花
〒402-0200 山梨県南都留郡道志村7501

・手織り教室の開催日時などの問い合わせ
「てとて」野口または根本まで 電話:042-385-7025

・ナバホ織りについてのご質問
内山すみえ 電話:042-593-0355 携帯:090-4735-1188

あなたのお便りや
写真をお寄せください



癒しのごとば

三重県伊勢市 中村薫

年子の兄と2才になったばかりの娘をつれて、職場近くの保育園へ通っていた頃です。仕事に家事に子育てにと、忙しい毎日。もう仕事を辞めよう、今日こそは…と毎日思っていました。娘のおしゃべりが上手になってきたある日の事でした。冬の朝、空にうっすらと残るお月さんを見て、「おちゆきさまがとけてきちよ〜」雨の日には、走る車のフロントガラスにあたり、踊り上がる雨の雫を見て「あめさんがある」とる「つい微笑み、力がぬけました。ホッと癒してくれる言葉があつたおかげで仕事も頑張り、続けられたと思います。今では、その娘も小学1年生。妹もでき、よく面倒を見て、私のお手伝いもしてくれる、しっかり者のお姉ちゃんです。

——子は支え。今でも癒しの言葉をくれるお月さん。



5才の挑戦

富山県滑川市 佐々木真澄

我が家には、もうすぐ5才になる息子がいます。何か初めての経験が出来ないかなーと相談していた時のことです。離れて生活しているおじいちゃんの家で泊まることは、しばしばあるのですが、今回は泊まった次の日に、いつもは車で送ってもらうところを、

「一人で電車に乗って帰ってくる!」と息子が言い出したのです。電車で約15分。幸い家が駅のすぐそばなので「おうちが見えたら降りるんだよね」と息子も得意げ。「大丈夫かな?」と心配していたのですが、少し緊張した面持ちで無事一人で乗って帰ってきました。息子の成長した姿を見て、涙が出そうになったのは私の方。こうやって大人になっていくんですね…。

——えのーすけー

♡は〜とふるボイス⑤♡

〜できること探して変身〜

「ソーシャルワーカーになりたい」と医療福祉系の大学に進学した娘に、期待が膨らみます。1歳半で脳性麻痺と診断されてから、さまざまな社会との軋轢がありました。リハビリの先生に紹介されたダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業は、私たち親子にとって一筋の希望の光でした。「できないこと」ではなく「できること」に目を向けてくださる喜び。海外で学ぶ機会をいただいた責任感。両方を胸に「娘だからできる何か」を見つけて欲しい。その自信が人助けのできる存在に変身するきっかけになるから。

●福岡市 中尾千恵



このコーナーについては、
広げよう愛の輪運動基金まで。

☎06-6821-5270 HP (<http://www.ainowa.jp/>)

詳しくはwebで「ダスキンのエコ」を検索してネ。



みんな
生まれ変わるん
ですって!!



さ〜も〜れ〜

ダスキンは、レンタルモップやマットなどの繊維部分だけでなく、使えなくなったモップのハンドルやケース、浄水器、空気清浄機、芳香器なども責任をもってしっかり回収。それらを回収後、一つ一つ分別・分解して素材や部品ごとに分け、ほぼ100%再資源化しています。

(ダスキン環境シンボルマーク)



ダスキンのお客様係募集中!!

詳しくはwebで

お客様係

検索

※お仕事内容や募集要項をご覧ください。



携帯からアクセス

お楽しみクイズ

モップのハンドルなどは、
分別・分解してどうしている？



再 化

正解者の中から30名様に
「くらしキレイBOX」を
プレゼント!



下記の要領でご応募ください。

◆ハガキに

- ①クイズの答え②郵便番号③住所④氏名⑤年齢⑥性別⑦電話番号⑧現在ご利用のダスキンの店名をご記入の上、下記あて先までお送りください。

◆締め切り 平成22年10月29日(金)当日消印有効

◆ダスキン関係者の応募はご遠慮ください。

◆当選者の発表は、プレゼントの発送をもってかえさせていただきます。(平成22年11月下旬お届け予定)

◆あて先 〒163-0223

東京都新宿区西新宿2丁目6番1号

新宿住友ビル23階(私書箱47号)

(株)ダスキン「喜びのタネまき新聞」クイズプレゼント係

◆応募に関してのお問い合わせ TEL:03-5909-6703

※抽選結果に関するお問い合わせはお受けできません。予めご了承ください。

今回ご応募いただいた個人情報については、(株)ダスキンの範囲内でのみ利用させていただきます。プレゼントの抽選・発送の目的以外には使用いたしません。個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、(株)ダスキン「喜びのタネまき新聞」クイズプレゼント係 TEL:03-5909-6703 までご連絡ください。

第494号のクイズの答えは「レンタル」でした。

●この新聞をお届けしているのは

株式会社 **ダスキン**

発行：広報・広告部 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33

編集：「喜びのタネまき新聞」編集室

〒163-0223

東京都新宿区西新宿2丁目6番1号 新宿住友ビル23階(私書箱47号)

TEL:03-5909-6703 FAX:03-5909-6771

【お客さまの個人情報のお取り扱いについて】

お客さまの個人情報は商品のお届けや回収、サービスの提供に利用させていただきます。また、後日商品やサービスのご案内をさせていただきます場合があります。なお、お預かりした個人情報はダスキングループ企業と加盟店の範囲内で利用させていただきます。配送業務等で個人情報を外部企業に委託する場合は、弊社の厳正な管理の下で実施します。

個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、下記ダスキンコールセンターまでご連絡ください。

■ダスキンコールセンター

0120-100100 www.duskin.jp